

2 - 5 東北大学における地殻変動連続観測 (1985年10月まで北阿武隈と男鹿地殻変動観測所における結果)

Continuous Observation of Crustal Movement (Results Obtained from the KTA and OGA Observatories until October 1985)

東北大学 理学部
Faculty of Science, Tohoku University

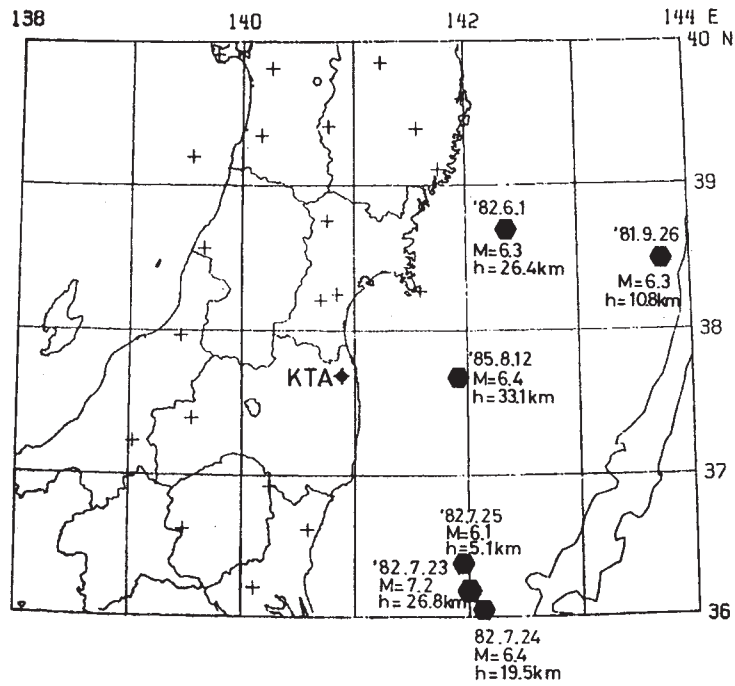
太平洋の北阿武隈 (KTA) でのひずみと傾斜観測結果と日本海側の男鹿 (OGA) における傾斜変動について報告する (第2図)。第1図は1981年7月1日から1985年10月31日まで北阿武隈 (KTA) 周辺で起こったマグニチュード6以上の地震の震央分布である。全ての地震は海で発生しており、特に1982年7月23日から25日には3個連続しており、最大はマグニチュード7.2であった。第3図に伸縮計により観測されたひずみと地震発生時が示されている。第4図に最大下降ベクトル図が示されている。南西方向に経年的に傾動しているが84年は特に変動が小さい。ひずみ・傾斜とも地震との関連は見られない様である。次に日本海中部地震後の変動を見るために男鹿 (OGA) における水管傾斜計によって観測された傾動ベクトル図を示す (第5図)。

地震後は北北西 - 南南東方向の年周変化が卓越しているのがわかる。

参 考 文 献

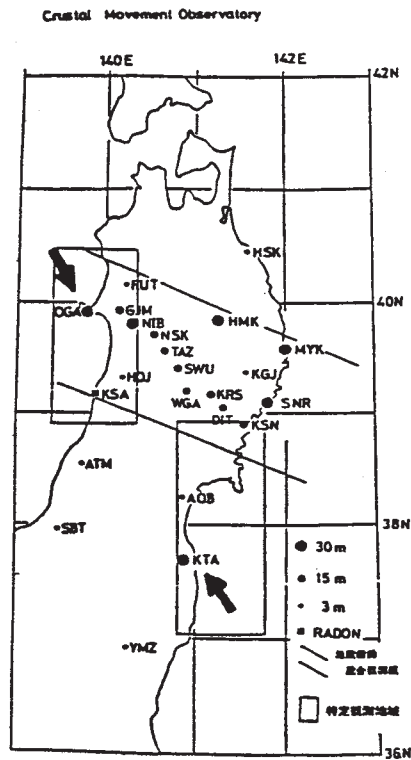
- 1) 東北大学理学部：東北大学における地殻変動連続観測 (ひずみと傾斜, 1984年4月まで男鹿と北阿武隈地殻変動観測所における結果), 連絡会報, **32** (1984), 38 - 42.

'81.7.1 - '85.10.31
M ≥ 6



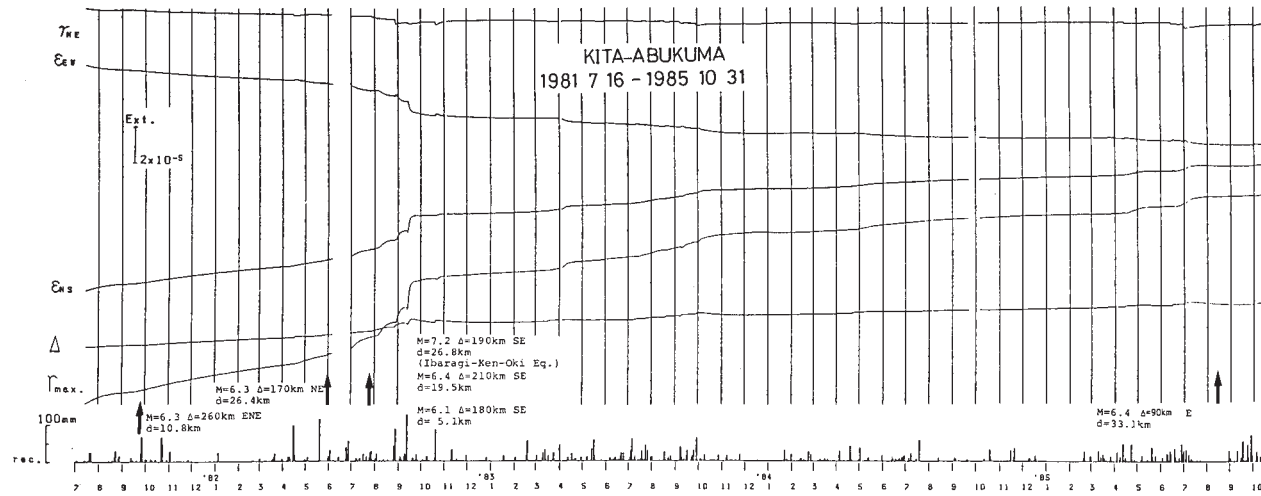
第1図 北阿武隈地殻変動観測所 (KTA) 周辺に起こった M ≥ 6 の地震の震央分布 ('81.7.1 - '85.10.31)

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes with magnitude greater than or equal to 6.0 occurring near and around the KTA observatory for the period from 1st July 1981 to 31st October 1985.

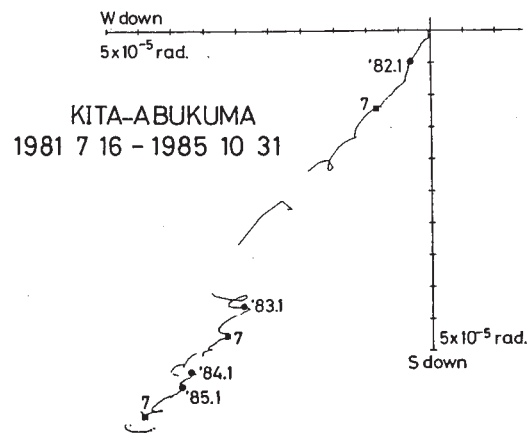


第2図 観測点配置

Fig. 2 Location of observation stations.

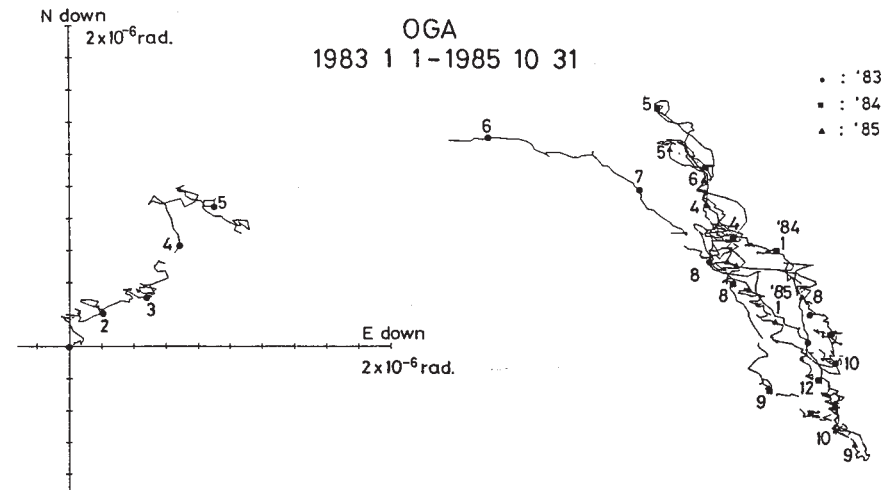


第3図 北阿武隈 (KTA) における伸縮計により観測された歪変動
 Fig. 3 Strain variation observed by extensometers in the KTA observatory.



第4図 北阿武隈 (KTA) における水管傾斜計により観測された傾斜変動

Fig. 4 Vector diagram of the maximum descending tilt direction observed by watertube tiltmeters in the KTA observatory.



第5図 男鹿 (OGA) における水管傾斜計により観測された傾斜変動

Fig. 5 Vector diagram of the maximum descending tilt direction observed by watertube tiltmeters in the OGA observatory.